

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホームほのぼの
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市西別府町1801番地
記入者名 (管理者)	瀬戸口 千鶴
記入日	平成 21 年 3 月 31 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一緒に寄り添い・・・」の理念の通り、地域や沢山の方々と寄り添い助け合って生活しています。「ほのぼの」の名前の通り1日が緩やかに流れています。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りで唱和し、また玄関、スタッフ室、台所に理念を貼り、常に意識できるようにしています。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関には手書きの理念を貼り、より馴染みやすく感じていただいています。パンフレットにも盛り込みました。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	土地柄ご近所が少し遠い気もしますが、月一回の個別処遇で入居者の家に出かけたり、デイサービスのお友達に会いに行ったり、また向こうからも来られたりしています。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員の方にお聞きして地域の清掃等に出かけていく計画です。去年は近くの神社の奉仕作業に入居者と参加しました。	○	事業所で近くの道路のちり拾いをしていますので入居者と一緒に参加して地域の美化に貢献します。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	月2回のスタッフ会議で入居者の処遇はもちろん、入居者もご近所にお友達がいる方も多いので、地域の高齢者との交流についても話し合っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価についても3カ月前よりスタッフ会議で全員で検討し、外部評価の結果を今後の介護に生かせるようにしています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催し、委員の方との交流も増えました。毎回テーマを決めてそれに従い意見の交換をしています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	諸手続きに出向いたとき、色々な情報を教えていただいています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	スタッフ会議のスキルアップとして、勉強会を開きます。また運営推進会議のメンバーの地域包括支援センターの職員の助言も心強いです。	○	入居者も年々高齢化し、避けては通れない課題です。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の職員研修会や、スタッフ会議の中のスキルアップ研修で、後継者虐待について勉強会を開き、自分たちが思っていないでも虐待になること、暴力だけでなく言葉や意思を妨げることも虐待になると知り、奥が深いと感じました。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	きちんとご本人やご家族に説明し、入院や退居の際も不安のないようにしています。どんな小さな質問にもきちんと答えるようにしています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関入口に設け、誰でも意見や苦情、相談を入れられるようにしています。ご家族及び面会に来られた方のどんな小さな意見でも聞き逃さないようにし、職員同士伝達しあい解決に向けて検討しています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会にこられる方にはその都度、遠方にいる方には定期的に電話で報告しています。法人発行の園だよりやほのぼのだよりも送付し、喜ばれています。ほのぼのだよりについては担当職員より一言も添えて、ご家族に入居者の暮らしぶりを報告しています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱やご家族の何気ない会話はもとより家族会、運営推進会議での意見も聞いて運営者に報告し、スタッフ会議でみんなで検討しています。意見箱はどんなことでも書きやすいように無地の紙を準備しています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のスタッフ会議では全職員が参加し、意見を聞く良い機会です。その意見に対して、全員で話し合います。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	個別処遇の時は4人体制にし、介護が行き届くようにしています。入居者の状況に応じて勤務変更は可能です。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者のことを考え極力職員の変動がないようにしていますが、介護経験のない方は介護の理想と現実のギャップで離職率が高かったため、介護経験者を採用したところ定着率が高くなりました。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修はもちろん、段階に応じての研修への参加を推進しています。また、新人職員につきましては1, 3, 6ヶ月で本人、指導者の業務評価表を作成し、より良い職員の育成に努めています。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市のグループホーム連絡協議会に加入し職員研修会や管理者研修会への参加をしています。同業者同士で意見交換し、職場でもその意見について討論しあいサービスの質の向上を目指します。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年齢も考え方も育った環境も違う職員ですから、その長所を生かせるようにしています。自分の意見を押し付けるのではなく、人の意見に耳を傾けることを大事にしています。また自分の経験を生かすようにしています。(例: 栄養士は食事管理・フットケアは便秘のマッサージなど)		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	上記のようにそれぞれがその特色を生かせるようにしています。また主婦は節約、若い職員は明るい雰囲気作りなどその年齢に合わせた特色があります。自慢できる職員です。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	1対1はもちろん、ご家族の協力もいただきながら受け止める努力をしています。かしまってしまうとなかなか本音を言われないので、日常的な会話でさりげなく聞き出すようにしています。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まず最初は話しやすい雰囲気を作り出すよう努力しています。ご家族の親しみやすい職員が話しやすいようです。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の話にまず耳を傾け、何が必要かを判断しています。本人を一番知っているご家族にも話を伺いながら一緒に話し合いサービスに反映しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の入居前の生活歴を十分把握した上でサービスを開始しています。普段のさりげない生活の中でその人らしさを引き出す努力をしています。いきなりではなく徐々に心を掛けています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日が喜怒哀楽だらけです。毎日笑って楽しければそれが一番ですが、悲しみや怒りも一緒に受け止め、涙を流し、怒りを静め、波乱万丈な1日を入居者と共に過ごします。また、入居者同士も交流があり、お互い泣いたり笑ったりしています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族の気持ちになって接します。もしこれが自分の親なら・・・と楽しい報告をした後のご家族の笑顔が、私たちの一番の介護への励みとなっています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	何よりご家族の愛情が本人にとって一番だと思っています。それをサポートする気持ちで頑張ります。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族はもちろん色々な方が面会に来て下さいます。併設の特養やデイサービスの利用者也遊びに来られます。月1回の個別処遇の日を設け、担当職員で馴染みの場所に出かけたりもしています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い入居者はもちろん、普段は接点がない方も職員が間に入り、共通の話題を作れば自然に打ち解けられます。特に新しい入居者が来られた時は職員の心遣いが大切です。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された方もその後の近況報告はもちろん、退院された後のケアを十分にしています。ご家族は元気になった時のためにと再入居申し込みもされていきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中から本人の希望や意見を聞きだしています。困難な場合はご家族にお聞きしています。昔話をする と自分から進んで、「こうだった、ああだった」と話が進みます。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人はもちろんご家族の協力をいただき把握に努めます。自分の興味のある話題には目の輝きが違います。特にふるさと(生まれた場所)の話題には皆さん目を細められます。個別処遇でお連れしています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	無理強いせずに本人に出来ることをしていただきます。その日の状態で、いつもは出来ても今日は出来ないこともありますので状況に応じて対応しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	より本人のことを考えた介護計画を立てているつもりです。介護員のためでなく、本人の一番と思っています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランについては半年毎に見直しています。変化が生じたときはその都度対応しています。モニタリングについては3カ月毎に行い、カンファレンスも随時行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人や家族の言われたことは情報の共有化をするために連絡ノートにきちんと記録し全員が把握するようにしています。職員が気づいた事もマメに記録し介護に生かします。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	土地柄、公園などの散歩ができる場所がないので、併設のデイサービスに散歩をかねてマッサージの機械を借りに行きます。夏祭り、運動会も特養と一緒に参加させていただいています。外出の時は特養のバスを借りて、みんな一緒に出かけられます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年4回の避難訓練は警察の方や消防署の方の協力をいただいています。また中学生の職場体験の受け入れや各種ボランティアの受け入れも積極的に行っています。今でも年賀状をくれる実習生もいます。不登校の中学生がグループホームの実習でいきいきしていたとの話を後で聞き、感動しました。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業者と連携をとり、また入居前の担当ケアマネとの情報交換も欠かさず行い、自立支援に向けて調整しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の委員に地域包括支援センターの職員をいれ、各種の専門的な資格をお持ちの職員の参加をいただいています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からの係りつけ医で定期的な受診及び検診を行い健康管理に努めます。また緊急の場合を考え、協力病院での定期検診も行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	びまん性レビー小体病など特殊な病名の入居者もいますので主治医と連携をとりながら処遇しています。病気に関する勉強会も看護師を招いて行っています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	特養、デイサービス、協力病院の看護師の方は入居者の状況を把握してくださっているのでとても頼りになる存在です。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院後は出向いて、経過を医師や看護師から直接情報をいただき、少しでも早く退院できるように努めています。小さな情報も伝達し1日でも早い退院を願います。マメに職員がお見舞いに行き顔を見せると喜んでくださいます。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族や本人の意向を一番に考えています。特養の看護師との終末期に向けての検討も行っています。入居者の中には延命治療はしないでとの念書をいただいている方もいらっしゃいます。	○	現在ターミナルケアに向けての方針を検討中です。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	開設5年ともなると入居者も高齢化し、避けては通れない課題です。主治医や看護師と連携を取りながらグループホームで最終的に出来る介護を検討しています。日勤帯で体調不良者が出た時は病院に連絡し、夜勤帯の急変に備えた体制をとっていただいています。ご家族との連携も欠かせません。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	極力環境を変えない努力はしています。今まで使っていたものを極力持ち込んでいくようにしています。かかわりのある方より情報を集め、その情報を共有し、より良い環境にしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁された時はさりげなく声かけをし本人の自尊心を傷つけないようにしています。またその方の排泄パターンを把握し、時間をみて声かけや誘導を行っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日のバイタルチェックをきちんとし、本人の希望を尊重してから入浴しています。血圧が高めの方は早めに声かけてあがっていただき、入浴できそうでない方はさりげなく話題を変え気分転換していただいています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	声かけしないとそのままその場にいらっしゃいますので「居眠りされたら風邪をひきますよ。」などと優しく声かけし、居室で休んでいただいています。休むのが嫌いな方はテレビを観たり入居者の一番心地よい過ごし方をいただいています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味をお持ちの方にはその趣味を生かして作品を居室に飾ったり、入居者に配ったりされています。家事においても自分にしか出来ない仕事をお願いし、自分の存在がここに必要だと確信していただいています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理のできる方はある程度の金額をご家族の了解のうえ、持たせています。農家の野菜売りの方が来られた時は野菜や花をうれしそうに買われます。外出の時は入居者のお土産も忘れられません。毎日の小銭数えを日課にされる方もいらっしゃるので、じっと見守っています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別処遇で墓参りに行かれたり、畑の見学や草むしり、花植えをしていただいています。農家をされていた方は職員よりむしろ詳しいため、指導していただきます。7月にはご家族との食事会も行い、皆さん喜んでくださいました。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	その月に合った行事を組み入れ(花見、月見など)体調をみながら全員で参加できるようにしています。ご家族も参加され、ここ(グループホーム)にいるからこそ外出もできると喜ばれる方もいます。入居者の介護度が上がったため、みんなで行けるように特養のバスを利用するなど、努力しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望があればすぐ対応します。毎年の入居者の手書きの年賀状もご家族には好評です。毎日のように娘様からのハガキを楽しみにされている方もいらっしゃいます。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族同士も交流があります。居室だけでなく食堂でほかの入居者の方と楽しく会話される姿はとても微笑ましいです。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の身体拘束廃止委員会に出席し、ほのぼのの規定もあります。スキルアップ研修で身体拘束廃止について勉強し、いかに身体拘束のない介護が必要かを認識しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけずいつでも開放しています。玄関が開くと心地よい鈴の音が鳴り教えてくれます。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーはきちんと配慮し、排泄、入浴中はドアを閉め、入室の時はロックもしています。9名の所在を常に意識しながらも一人の時間も大事にし、何かあったときはすぐに対処できるようにしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁は昼間は職員と一緒に使用し、夜間は鍵をかけています。薬や薬剤についてもきちんと入居者の手の届かないところに保管し、危険防止に努めています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各種マニュアルはありますが、実際に経験することが大事と思い、スタッフ会議や職員研修会で応急処置の講習会を開催し参加しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修会での実技はもちろん、看護師を招いて勉強会を行い、急変に慌てず対応する体制をとっています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回の避難訓練はもちろんほのぼのでも独自の避難方法を職員、入居者交えて話しています。また避難訓練についてはきちんと記録を残してあります。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	個人個人の生活歴、病歴をきちんと把握した上で起こりうる様々なリスクに対処する旨を家族と日々話し合っています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや様子観察をし、異変があればすぐ主治医や協力病院の受診をして、早めの対応を大事にしています。家族にもすぐ連絡します。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の薬のリストを作成しています。職員全員が把握しています。薬の服薬についても必ず確認し、副作用が出た時はすぐ主治医に相談できる体制です。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	緩下剤の使用はしていますが、なるべく自然な排便ができるよう食事に繊維質のものを入れたり、毎日の牛乳を日課にしています。水分も多めに摂っています。体操や健康体操も取り入れています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立の方には声かけし確認しています。残存能力を見極め、できることはしていただいています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの嗜好を把握し、その方に応じた食事量を摂取していただいています。介護度が重く自分で摂取できない方には時間や体調をみて補給しています。便秘気味の方にはお茶は必ずおかわりしてもらっています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルもあり、定期的な委員会も開催し、各種情報も共有しています。流行の時は家族や面会者にもマスクや手洗いをしてもらい協力していただいています。スタッフ会議で勉強会もしています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は毎日乾燥機にかけて消毒しています。食材に関しても賞味期限を確認し期限内に使い切ります。食中毒の勉強会も開催しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物入り口や食堂には季節の花々を常に欠かしません。明るく入りやすい玄関です。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しについてはカーテンで調整しています。テレビの音は入居者に確認しながらです。食堂には空き瓶で作った花瓶にほのぼのので採れた花を飾ります。毎日の水かえは入居者の仕事です。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3カ所にソファを設置し、入居者同士が座って世間話をされます。また食堂の片隅に畳を置き、入居者の洗濯物たたみや休憩するのに役立っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の中には自宅から仏壇を持ち込まれている方もいます。毎日手を合わされます。花や趣味のものを置かれ心地よく生活されています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の掃除の時は窓を開け空気を入れ替えます。温度計と湿度計の設置を行い管理しています。また、入居者の体感温度に合わせておこなっています。個人個人で感じ方は違いますから。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	てすりはもちろん、室内散歩をされる方には途中休憩ができるようにソファを置いています。途中で休憩されるような配慮は欠かせません。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室のわからない入居者には手書きの名前を貼ってみるとすぐ理解されました。自分で書いた字ですから効果がありました。また職員もそのわかる力を十分理解しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関横にはベンチを置き、天気の良い日は外でお茶を飲みます。庭には小さいですが菜園があり季節の野菜や花を植えています。自分で作った野菜を食べて皆さん喜ばれます。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ほのぼのの一番の自慢は入居者同士の助け合いがあることと、皆さん仲が大変良いことです。